

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

令和4年(2022年)度
自己評価報告書

2023年7月1日

大阪文化服装学院

目 次

1	学校の理念、教育目標	1	5-19	学生生活	2 6
2	本年度の重点目標と達成計画	2	5-20	保護者との連携	2 7
3	評価項目別取組状況	3	5-21	卒業生・社会人	2 8
基準 1	教育理念・目的・育成人材像	3	基準 6	教育環境	2 9
1-1	理念・目的・育成人材像	4	6-22	施設・設備等	3 0
基準 2	学校運営	5	6-23	学外実習・インターンシップ等	3 1
2-2	運営方針	6	6-24	防災・安全管理	3 2
2-3	事業計画	7	基準 7	学生の募集と受入れ	3 3
2-4	運営組織	8	7-25	学生募集活動	3 4
2-5	人事・給与制度	9	7-26	入学選考	3 5
2-6	意思決定システム	1 0	7-27	学納金	3 6
2-7	情報システム	1 1	基準 8	財 務	3 7
基準 3	教育活動	1 2	8-28	財務基盤	3 8
3-8	目標の設定	1 3	8-29	予算・収支計画	3 9
3-9	教育方法・評価等	1 4	8-30	監査	4 0
3-10	成績評価・単位認定等	1 5	8-31	財務情報	4 1
3-11	資格・免許の取得の指導体制	1 6	基準 9	法令等の遵守	4 2
3-12	教員・教員組織	1 7	9-32	関係法令、設置基準等の遵守	4 3
基準 4	学修成果	1 8	9-33	個人情報保護	4 4
4-13	就職率	1 9	9-34	学校評価	4 5
4-14	資格・免許の取得率	2 0	9-35	教育情報の公開	4 6
4-15	卒業生の社会的評価	2 1	基準 1 0	社会貢献・地域貢献	4 7
基準 5	学生支援	2 2	10-36	社会貢献・地域貢献	4 8
5-16	就職等進路	2 3	10-37	ボランティア活動	4 9
5-17	中途退学への対応	2 4	4	2022 年度重点目標達成についての自己評価	5 0
5-18	学生相談	2 5	5	2022 年度財務諸表	5 1

6 成績評価表（添付資料）	54
7 2022年度検定結果報告書	55

1 学校の理念、教育目標

教育 理 念	教 育 目 標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「社会への還元」—これが本学院の教育理念である。1946年(昭和21年)の創立以来、“ファッションで社会に貢献する”ことを目標としてきた。 ・ 当校でファッションを学ぶ学生には最良の環境で、最良の教育を提供することを通して、学生一人ひとりがファッション業界で活躍するという強い使命感を持ち、企業で通用する一流の知識・技術・技能を身に付けてもらう。 <p><経営理念> 「社会への還元～ファッションで社会に貢献する～」</p> <p><学院方針> 「一流のファッション専門学校～優秀な人材を輩出～」</p> <p><コアコンピタンス> 「ファッション教育分野における世界標準の教育」</p> <p><学院目標> 「優秀な人材を数多く育成し、業界に送り出す」</p> <p>ビジョン及び育てたい人材像。</p> <p><ビジョン> 「日本で最も高い成果を上げ、アジアを牽引する発信力を持ち、世界から信頼されるファッション教育機関であり続ける」</p> <p><人材像> 「常に挑戦し続ける情熱と新しい価値観を発信できる独創性を持った、世界で活躍できるプロフェッショナル」</p>	<p>策定した中長期計画に基づき、目標とする大阪文化服装学院像を以下の通り設定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的に高い評価を受け、世界トップ校と対等に渡り合えることができ、アジア地区では最高レベルと認知されている。 2. 国内アパレル業界から、西日本では圧倒的なNo1、全国でも文化服装学院と双壁という確固たる評価を受け、求人や協業の依頼が集中する。 3. 高校生など入学希望者から、国内で最もレベルの高い学校と認知され、特にモチベーションが高く、ハイレベルな学生からの支持が圧倒的。 4. 高校教員や保護者、また一般層からも、トップ校としての認知度が高く、メディアや企業など各方面からの情報提供、共同研究の第一のオファー先となっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育目標を達成するため重視するのは、グローバル戦略、DX教育の推進、インキュベーションおよびSDGsを取り組むべき重点4テーマに設定。 ・ 特にグローバル戦略とDX教育の推進は最重要課題として取り組んでいく。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者
--------	-----------	-------

2 本年度の重点目標と達成計画

令和4年(2022年)度重点目標	達成計画・取組方法
<p>中長期計画に基づき、学院ビジョン等に加え、各学科で、育成すべき人材像等当面の目標、及び10年後を見据えここ数年で着手すべき課題を抽出し、プロジェクトとしてスタート。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル戦略 2. DX教育の推進 3. インキュベーション 4. SDGs <p>以上4点を取り組むべき重点4テーマに設定。 2022年度は各テーマに対し、具体的な課題を「プロジェクト」化し推進、磨きをかけていく。</p> <p>(教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度もオンライン授業、オンデマンド授業の整備強化に加え、有効活用を目的とした運用拡大を行う。 ・ 新設した3Dモデリストコース、AIの特別講義など外部との協業で、今までにない独自のデジタルコンテンツを導入。この領域で、先駆者認知の定着と学生の「人材的価値」向上を狙う。 ・ 産学連携は、尾州、高野口、西脇の各産地と新たにスタートし、引き続き新スタイル確立を目指し産地協業を継続する。 <p>(学生募集)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部に対する情報共有や発信を強化しブランド力向上を図る ・ 「入学広報課」ではKPIやKGIの設定など数値管理を徹底する。 ・ 令和4(2022)年度の入学目標を315人とする。 <p>(就職)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終就職率目標90% (昨年81%) ・ 幅広い職種に目を向け就職活動に取り組む。 	<p>中長期計画に基づき、重点4テーマに引き続き取り組む。 (グローバル戦略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Polimoda校には新たな協業としてニット分野でのコラボおよび着物を利用したアップサイクルコンテストを提案。 ・ Polimoda校に加えて新たな海外の協業校を模索する。 ・ スタイリスト学科にて新たに「韓国スタイリング研修」を計画。同時に韓国の関係機関を訪問し協業を提案する。 <p>(DX教育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン化プロジェクトの一環としてテキストの電子化を進める。 ・ 3Dモデリストコースにおいて協業や講演などアピールを強化する。 ・ AIを駆使してトレンドを分析し、いかに「データをビジネスで有効活用するか」を重要視して導入したカリキュラムを実施。引き続き成果を一般マーケットに向けて公開し、分析成果の有効性・有用性をアピールし、評価向上にもつなげる。 <p>(インキュベーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ OIFer LINKを通じて卒業生の活動を活性化。学院に担当を設け、ハブとなり、OB任せではない企画、運営を行う <p>(SDGs)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsをテーマとするイベントを企画、提案、実施をする。 ・ サステイナブルを意識した作品制作、企業コラボなどを推進する。 <p>(学生募集)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに「IR広報課」を立ち上げ、外部に対する発信力を強化する。 ・ スタイリスト学科に新たなコースを立ち上げる。 <p>(就職)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職情報の発信を積極的に進め、求職率を上げる。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者
--------	-----------	-------

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門学校としての教育理念、目的、育成人材像は明確なものになっている。 ・ 学科ごとに教育目標、将来像を明確にするとともに、企業と連携した実習・演習を実施している。 ・ 教育理念、目的、育成人材像については生徒・保護者への周知とともに業界とのコミュニケーションを深め、時代のニーズに合った教育をいっそう推進する必要がある。 ・ そのために関連機関等の協力のもと、業界のニーズに沿って育成人材像を構想し、その育成に取り組んでいる。 ・ 教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会より得た情報を把握し、キャリア教育の充実向上を図っている。 ・ 常に時代のニーズに合った新学科、新コースを検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育成人材像に定めた「常に挑戦し続ける情熱と新しい価値観を発信できる独創性を持った、世界で活躍できるプロフェッショナル」を基本にクリエイター系、ビジネス系、スタイリスト系それぞれにおいて、学科・コース特徴を発揮することで他校との優位性を確保する。 ・ そのために時代の流れを機敏に察知し、常に業界と時代のニーズに応じた人材教育を目指し、優れた人材の輩出に引き続き注力する。 ・ また、コロナ禍に伴う社会変化に対応し、オンライン授業やテキストの電子化、カリキュラムの改善、進化を通して多彩な人材を育成することで企業評価を高める。 ・ 教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会等を通じて外部からの意見を取り入れるとともに、内部の意見も整理して教育課程に反映させて行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍により制限されていた海外校との連携を少しずつ復活させていく。 ・ 18歳人口の減少に伴う学生数の減少に対応する方策を中長期で実施していく。 ・ 教育環境の整備を目的として学内のレノベーションを計画的に実施する。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	教育理念、教育目的、育成人材像は、本校の教育全体に関する 基本的かつ重要な考えを示すものであると理解し、明確に定め実現に向け取組んでいる。	一定規模の学生数を確保しつつ、設備、教育内容、教員の質を充実、向上させる必要がある。他校の追随を許さない教育の質を追求し、差別化を図る。	学則 学院案内パンフレット 学院ホームページ
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	学院の全体目標と学科別の目標を定め、自ら考え、行動できる人材を育成。 産業界との連携の中で教育カリキュラム、授業計画の見直しを常に進めている。	カリキュラムの改善、進化を通して多彩な人材を育成することで企業評価を高める。 インターンシップ研修、産地との協業などを通して企業との太いパイプをつくり上げる。	
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	ポリモーダを中心に海外校との取り組み深耕。 海外への留学生派遣の支援。 海外でのファッションコンテストへの積極出展。 多彩な企業コラボレーションの継続展開。 産地を含むインターンシップ受入れ先の開拓。 3D モデリスト、SNS マーケティングや AI などの DX 教育を今後も強化。	他からの人材を含め、全体をコーディネートする教職員の育成。	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	中長期計画に基づき、学院ビジョン等に加え、各学科で、育成すべき人材像等当面の目標、及び10年後を見据えここ数年で着手すべき課題を抽出し、プロジェクトとして実施。	中長期計画の策定には教職員全員が参画し、たがいにアイデアを出し合って進め、決定したプロジェクトに沿って課題を解決していく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中長期計画で策定した理念や目的、育成人材像等を基本にして、業界と連携し 今後も学校運営を行う。当校でファッションを学ぶ学生には最良の環境で、最良の教育を提供することを通して、業界が必要とする専門知識と技能を有する人材の育成、社会で活躍・貢献できる人材の育成に努める。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立以来の理念である『社会への還元』の具現化のため、学校の目的、方針を明確に打ち出し、その実現に向けて組織体制を整備して運営方針、事業計画を策定している。 ・ 理事会で決定・承認された運営方針に基づいて、毎月開催される学院会議で具体策を検討し、その進捗状況を管理する等、運営組織および意思決定機能は極めて明確かつ効率的なものになっている。 ・ 2023 年度も取り組むべき重点 4 テーマである「グローバル戦略」「DX 教育の推進」「インキュベーション」「SDG s」を引き続き踏襲し、さらに磨きをかけていく。 ・ 在籍者数の維持を図るため、継続して退学者の減少に取り組む。退学者数は 2021 年度が 112 名（退学率 14%）に対して 2022 年度は 104 名（退学率 14%）。高等教育無償化により経済的理由による退学者は減少したが今後も個別分析による退学防止指導を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 策定した中長期計画に基づき、学院ビジョン等に加え、各学科で、育成すべき人材像等当面の目標、及び 10 年後を見据えここ数年で着手すべき課題を抽出。 <ol style="list-style-type: none"> ① グローバル戦略 ② DX 教育の推進 ③ インキュベーション ④ SDG s 以上 4 点を取り組むべき重点 4 テーマに設定。 ・ 中長期計画の進捗管理を徹底する。年度ごとのレビューを通して、ローリング方式で目標数値の修正を図る。 ・ 就職面ではキャリアセンターが今後の企業の動向を注視しながら情報をつかんで少しでも多くの内定者を出せる様フォローを続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の質を担保するため、下記の項目を積極的に進める。 <ol style="list-style-type: none"> ① 企業と連携したインターンシップ研修制度の拡充、および評価システムの改善。 ② 企業、海外校との連携事業を積極展開する。 ③ ファッションビジネス学会等で教員の研究発表 ④ 学内の ICT 環境の整備強化に加え、今後も有効活用を目的とした運用拡大を行う。 ⑤ OIFer LINK を活用し、卒業生の支援を行う。 ・ 経済的理由による退学者を減らすため、学院独自の奨学生制度を導入済みである。 ・ 海外留学希望者を支援するため、給付型の海外留学奨学金を導入し支援を強化する。

最終更新日付	2023 年 7 月 1 日	記載責任者	
---------------	----------------	--------------	--

2-2 運営方針

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	理事会で決定、承認された経営方針の下、毎月開催する学院会議で検討し、承認される。ここでの決定事項は教職員全員にメールにて共有を図る。	学院運営に関しては、トップダウン、ボトムアップのいずれにも偏らず、教務、入学広報、IR 広報キャリア支援課、総務課等の意見と財務内容を基にしたトップの判断を加味して検討。 最終判断はトップが下す。 これからの学院運営では、職業実践専門課程認定に伴って学校運営の改善を図る。 このため組織体制の整備、教員研修の強化による教育の質確保については常に改善を心掛ける。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度末に教職員全員を対象に、当該年度の基本方針や考え方、組織編制、具体的計画、目標、収支予算等についての説明会を実施。情報開示、共有をはかる。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

2-3 事業計画

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<p>2020 年度に新たに中長期計画を策定。2021 年度より実践に入る。</p> <p>その中期計画に沿って単年度ごとの事業計画を立案、実施に移す。年度別事業計画では学科ごとに入学者数、就職者数、就職率、重点就職先・職種、および退学率の低減等について目標値を定め、進捗状況を管理している。</p> <p>事業目標の執行・進捗状況を 11～12 月に見直し、次年度の目標値等を見直しする。</p>	<p>中長期計画の中で執行体制、業務分担について見直し、権限と責任を明確にした。</p> <p>中期計画を具現化するため、3～5 年後を見据えた組織のあり方について検討を続ける。</p> <p>中長期計画の進捗管理を徹底する。</p> <p>年度ごとのレビューを通して、目標数値の修正を図る。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の運営方針を反映した事業計画は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく毎月開催される学院会議にて進捗と差異を確認、必要な手立てを講じている。</p> <p>年度末に説明会を実施し、教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく。</p>	

最終更新日付

2023 年 7 月 1 日

記載責任者

2-4 運営組織

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	学校法人の理事会、評議員会は寄附行為に基づき適正に運営している。審議事項、議事録等を作成し、問題はない。寄附行為変更手続きも法令に従っている。	特になし	
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	職員会議は年1回開催し、年度ごとの方針やその振り返り、今後の方向性などを教職員全員で共有する。 学院会議での決議事項は議事録を教職員全員で共有し、周知を図っている。 教務部はクリエイター系、ビジネス系、スタイリスト系に分かれ、校長、教務部長が統括、学科に学科長、学科主任を置き、業務遂行に当たる。 経営ボードの下に総務課、キャリア支援課、IR広報課、入学広報課を置く。	学科特性を發揮し、迅速な意思決定を狙いに、学科長に権限移譲を図った。 具体的には、SD 学科、FC 学科、BM 学科、FB 学科、ST 学科の5 学科とし、教務部長のもとに学科長、学科主任が統括する。 職制の役割、権限を明確にしている。 会長、理事長、経営企画本部長、校長にて経営ボードを構成。 会長、理事長、経営企画本部長、校長にて学校法人の中長期を論議。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会・評議員会で決定・承認された運営方針に基づいて、毎月開催される学院会議で具体策を検討し、その進捗状況を管理する等、運営組織および意思決定機能は極めて明確かつ効率的なものになっている。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

2-5 人事・給与制度

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<p>実務経験や実績を重視して教職員を採用。昇格・昇給は年2回実施する考課による。考課項目は「執務態度」「発揮能力」「実績」。上司による一次、二次評価を基に考課者会議で評価内容を検討。夏季休暇に合わせて計画年休取得日を設定。管理職手当、勤務調整手当、および営業手当など諸手当・休暇の変更に伴う就業規則の改定、育児・介護休業規程の改定について、労使協定を結んだ。</p>	<p>教員の採用に当っては年齢構成、分野別バランスに配慮する必要がある。考課では各自が立てた目標に対する実績(成果)を重視している。ただ目標設定に際し、どれだけ新しい試みをしたか、も考慮する。働き方改革に対応した労務管理は常に見直し改善をしていく。</p>	<p>学則 就業規則 給与明細</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>要員計画、採用計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。人事・給与に関する規程も整備されており、適切に運用されている。</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

2-6 意思決定システム

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	学校法人の意思決定機関は「理事会」。 経営企画、教務、IR・入学広報課、キャリア支援課、総務課に関する平常の運営、進捗状況は月 1 回開催される「学院会議」が統括している。 必要に応じて各部署が具体的な戦略を協議。 学院会議の承認を得て実施に移す。	教務と総務課、IR・入学広報課、キャリア支援課との情報共有をより密にし、報・連・相を徹底する。 管理職育成の観点から次世代の登用や権限委譲を順次進める。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会、評議員会、学院会議、それぞれにて意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容は速やかに伝達されている。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

2-7 情報システム

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化 に取組み、業務の効率化を図っているか	<p>2021 年度以降の入学者に対して PC 端末 (Google 社の Chromebook) を支給し、ICT を活用した教育環境を整備。</p> <p>新生を対象に SNS の活用にあたって、注意事項等に関する講義を行う。</p> <p>Wi-Fi の更新。</p> <p>「Google classroom」の活用により、学内でも学外でも学生と教員が、課題の出題、連絡のやり取り、情報の管理など効率的に行われている。</p> <p>学院経営を脅かす可能性があるサイバー攻撃、不正アクセス、個人情報漏洩等のリスク対策を目的とし、プロジェクトを立ち上げ「教職員向け情報セキュリティ対応規則」を制定。業務におけるセキュリティ意識を高めている。</p>	<p>トータルコスト低減と業務の継続性向上のため、クラウド化 (サーバーの学外設置) を完了済み。システムのメンテナンス、およびセキュリティーの整備管理を徹底し、情報の漏えい等を防止する。「Google classroom」のリモート授業への活用。</p> <p>システムの定期的メンテナンスの実施、セキュリティー管理のさらなる徹底。</p> <p>PC 端末 (Google 社の Chromebook) のさらなる活用。</p>	情報セキュリティ管理規程

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学生管理情報、入学志願者情報、成績・出席率管理、学納金管理等を一括に把握できるシステムを構築し稼動しており、必要に応じて新しいシステムを検討の上、導入している。</p>	

最終更新日付	2023 年 7 月 1 日	記載責任者	
--------	----------------	-------	--

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・ 2022 年度の学科構成は以下の 5 学科。 <u>デザイナー、パタンナー、縫製等の職種を目指す</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スーパーデザイナー学科(4 年制) ・ ファッションクリエイター学科(3 年制) <p><u>ショップ販売員、バイヤー・MD 等の職種を目指す</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブランドマネジメント学科(3 年制) ・ ファッションビジネス学科(2 年制) <p><u>スタイリストの育成を目指す</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スタイリスト学科(2 年制) <p>・ 基本的に 1 年次で基礎知識、基礎技術を習得し、2 年次以降、コースを選択し、企業との連携によるインターンシップ研修等を通して実践型授業を展開。企業連携の中で業界の人材ニーズを把握し、修業年限に対応した習得到達目標を明確にしたカリキュラム編成をしている。</p> <p>・ カリキュラム編成は、業界動向、企業が求める人材ニーズ、職業実践専門課程・教育課程編成委員からの意見聴取。これらを参考に見直しを進めている。学科特徴を明確にすることで他校との差別化を実現。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期計画に基づき、各学科で KGI・KPI を策定。入口、中身、出口を明確にして教育活動を進めていく。 ・ 職業実践専門課程の「学校関係者評価委員会」「教育課程編成委員会」等での問題提起や意見聴取を通して、継続してカリキュラム編成、科目構成、授業内容や進め方等について改善を図る。 ・ ファッションクリエイター学科において外部委託していた 3D モデリストの講義を、2023 年度より当校教員が実施。目標としていた自走化に向けて前進させる。 ・ ファッションビジネス学科では、引き続き SNS やデジタルメディアを使用した新しい販売方法の授業に取り組み、業界の採用ニーズに対応。 ・ ブランドマネジメント学科ではカリキュラムの改善を進め、販売トレンドや課題、マーケティング最適化について AI を活用し、分析・研究。仮説設定力、課題解決力を育成する。 ・ スタイリスト学科の新たな海外研修として「韓国スタイリング研修」を導入 ・ 教員の質向上を狙いに、教員研究活動の推奨、そのための支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル戦略、DX 教育の推進。 ・ 全学科において企業と連携したインターンシップ研修を実施。企業理解、職種理解を深めるとともに、学生 1 人 1 人が自主的、主体的に学修に取り組み、業界のプロとして活躍できる知識・技術・技量を身につける。

最終更新日付	2023 年 7 月 1 日	記載責任者	
--------	----------------	-------	--

3-8 目標の設定

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	理念、教育方針等は学院案内パンフレットに明記し、HP で公開している。 「Google クラスルーム」の活用により、課題の出題、連絡のやり取り、情報の管理などが可能となった。 学院生活での遵守、注意事項等は HP で公開。	職業教育の実効を引き出すため、学科の特性に応じて、多くの企業と連携事業を進めている。 企業とは「職業教育協定書」等を交わし、連携事業の意義、目的を明示。企業から連携事業に参加した学生の評価もしてもらう。 有力企業を中心に引き続き、太いパイプづくり。 グローバル戦略、DX 教育の推進のため、新たな取り組みを探る。	学則 学科、コース別シラバス 学院案内パンフレット 学院ホームページ
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	中長期計画に基づいて学科ごとに育成人材像を明確化。1年次では基礎知識、基礎技術を身に付けることに主眼を置く。2年次以降から業界ニーズと将来の職種に対応した専門知識、技術を修得できるカリキュラム編成を組み立て、年次ごとの到達目標を明示。 資格取得や検定合格のため、平常授業に加え、特別講義を実施している。	完成度の高い提出物を出させるための段取りと集中力を高める工夫がある。 学科別に教育到達レベルについて論議し、再確認作業に取り組む。 アウトプットからアウトカムズを考え方を重視。 シラバス項目は全学科共通の項目に統一。到達目標(学修成果)、成績評価の方法、基準を明記し、ホームページで公表している。これと関連して「シラバス作成ガイドライン」を策定。	学科、コース別シラバス 学院案内パンフレット

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
中長期計画に基づき新たに各学科の入口、中身、出口の KGI・KPI を設定し達成に向けて進めていく。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

3-9 教育方法・評価等

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	各学科からカリキュラム編成について提案がある。これを学科長会議等で論議し、学院会議で決定する。 授業科目は学科特性を発揮するための「必須科目」と各学科に共通の「共通科目」に区分けしている。必須、共通科目の配分は適切である	教員の研究活動支援するため、環境整備に引き続き取り組む。 教員の質向上を狙いに、教員研究活動の推奨、週2コマの研究の時間をあらたに設定。研究に対する褒賞などの支援を行う。	学科、コース別シラバス 職業実践専門課程「教育課程編成委員会」規程
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	業界関係者による教育課程編成委員会を通して、意見聴取や評価、改善提案を集約している。 企業とのコラボを通じて企業関係者からの指導、意見聴取を実施。	実践的な職業教育の効果について、問題点や課題を就職先企業から定期的、継続的に意見聴取する必要がある。就職先の大手企業を中心に職業実践教育の効果について、ヒアリングを実施していく。	教育課程編成委員会規程 学生アンケート
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	キャリアセンターと就職担当教員が年度方針、指導方法のあり方を協議。具体的な授業展開について学科長と細目を詰める。 企業の協力を得て「企業説明会」を定期開催。 採用試験対策として面接対応や技術指導を個々に合わせ、指導を強化。	学校が目指す育成人材像と企業が求める人材像の整合性に配慮したキャリア教育に取り組む。 卒業生ネットワーク構築のため、専門業者をサポートに迎え、同社独自の卒業生プラットフォームと、連動したSNSを採用・導入し活用する。	学科、コース別シラバス
3-9-4 授業評価を実施しているか	学園生活全般に関することと共に授業内容についてアンケートを実施。 必要に応じて担当教員によるヒアリングを実施	非常勤講師とのミーティングを定例化。 授業内容や学生の興味や関心度、理解、進捗速度について、講師との情報共有をさらに強める。 教育課程編成委員会でアンケート分析結果から問題点を抽出し論議する。	教育課程編成委員会規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程編成委員会の提言、企業コラボなどを通じて教育課程に反映させることを今後も継続的に進めていく。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	定められた授業期間の講義、演習、実習に出席し、試験を受験、またはレポート、作品・成果物提出がそれぞれの科目で要件を満たした場合、学期または学年末に成績評価が与えられる。 成績評価は学習態度、出席状況、試験、提出課題、成果物などをもとに総合評価する。評価は5段階で行い、A・B・C・D・Eのレターグレードによる評定とし、Eの場合は不認定となる。但し、SD学科はC以下、BM学科はD以下が不認定となる。	提出の期限を守れない者や未提出者が多い。この結果、不認定につながっている。 デザイン、ドローイング等の感性にかかわる課題で担当教員によって評価がばらつく傾向にある。提出物の締め切りが集中しないように、教員間で調整し、学生からの苦情を減少させる。 事前に評価基準の細目を設定する一方、採点する教員間での意見交換を重ねる。	学院ホームページ
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	2022年度もコロナ禍の中、多数のコンテストに参加した。 国内コンテストは装苑賞他。海外コンテストはGFWi、FGI、大連カップ、アジアファッションコンテスト、FBアワードなどに参加。 その他、SDGsに関連するリメイクコンテストやスタイリングアワードにも参加した。	安定して外部デザインコンテスト入賞者等を輩出する仕組みづくりに取り組む。 海外デザインコンテストに関する情報収集。 地域や団体、企業が開催するコンテストにも積極的に参加。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価の基準、成績評価方法、成績の表示などは明確に定めており、ホームページの学校生活ガイドに記載し、周知している。また、入学及び進級オリエンテーション等において詳細に説明を行なっている。 その他、学院から在校生の方への連絡は、原則として在校生 Classroom と学生メールならびに学内掲示板で行っている。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	学科、コース別に取得すべき資格検定試験を明示。授業との連携に加え、資格試験のための特別講義を実施し、受講者の意欲喚起を図る。試験直前の対策授業の実施。パターン能力検定試験では、外部から講師を招聘し、特別講座を開催。パターン検定1級合格者を増やす。	資格検定試験の合格率向上のため、特別授業の実施。 企業との連携講座の整備・拡充。	2022年度検定資格試験結果一覧
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	学科長、学科主任が資格検定試験の取得のための指導方針を立案し、科目担当教員が実施に当たる。様々な資格があるが、学科に適した資格取得を薦め、対策授業も行っている。合格者の数を把握し、指導材料にしている。	合格率をアップさせる為の、対策授業を強化。対策授業にて学生の理解度を収集し、弱い部分を徹底的に学ばせる。	2022年度検定資格試験結果一覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得の体制については「関西ファッションカレッジコンソーシアム」を通じて各種検定試験と会員校の教員、在学生を中心に検定試験対策講座を実施している。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

3-12 教員・教員組織

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	教員採用に当ってはファッション、および関連業界での実務経験の有無を重視。担当する授業科目に必要な資格や経験等を確認し、採用している。 採用後も学生指導に必要な教育学、心理学、クラス運営や授業の進め方、クレーム対応等を学ぶ研修に派遣。	大専各や業界団体が実施する研修、公開講座へ継続して参加している。 教員の知識・技術・技能レベルが業界水準に対応しているかを判断するため、企業と連携して教員研修を実施。企業現場の変化を敏感に感じとって授業に反映させる。	
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の研究成果をファッションビジネス学会全国大会等で定期的に発表。 自己啓発の一環として外部セミナーや資格取得講座への参加を支援。 教職員用の海外留学支援規程を制定。教職員のキャリアアップを支援する。 教員研究活動の推奨、週2コマの研究の時間を設定。研究に対する褒賞などの支援を行う。	研修受入れ企業の開拓に引き続き取り組む。 自己啓発の促進、経済的な支援制度を制定。今後の有効活用が課題。 中長期計画に基づき教員の目標を以下の通り設定し提出。半年後にレビューを実施。 クラス運営・担当教科・プロジェクト、校務分掌就職、インターンシップ、就職指導、学生募集	海外留学支援規程（教職員）
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	各学科について、デザイン、パターン、サンプル(縫製)、ビジネス、素材、カラー等の授業分野ごとに人員配置は適正。 教員の等級と責任および昇格等について規定を設けている。 講師ミーティングを年1回実施。情報共有を図る。	中長期的観点から教員組織体制のあり方の検討。 教員の配置転換や若手の積極登用。 複数クラス担任制を全学科学年担当制に移行。	2022年度クラス編成

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業内容や教育法の改善に関しては「教育課程編成委員会」などの意見をもとに指摘事項を反映定期的な見直しを行っていく。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・職業教育に特化した専門学校として、仕事を通して社会に貢献できる人材育成が目標である。そのためにファッション分野で必須とされる専門知識、技術、技能を修業年限に習得し、必要とされる資格、検定の履修指導も行っている。 ・育成した人材を企業に送り込み、就職後も一定年数勤務できるように、キャリア支援課、担当教員が連携し、就職相談、指導に当る。2013年度以降、就職率(就職者数÷求職者数)は 95~96%の水準を維持。 ・しかしながら 2021年度はコロナ禍のため就職率は大幅に下落し79%となったが2022年度は85%まで回復した。 ・ここ数年、働くことの意識づけに着手し、就職率の引き上げに取り組んでいるがコロナ禍の影響で就職しない学生が増加、2021年度は69%であった求職率は2022年度は76%まで回復した。 ・しっかり学び、そして就職するという単純なことではあるが、それを貫徹するため出席状況、課題提出、礼儀マナー、言葉遣い等に基本的なことから徹底する。 ・全国の繊維産地との連携を図り、就職機会を広げることにも取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の共通目標として、『就職率 100%』を掲げる。キャリア教育に加え、生活指導面接等を通して「働くことの意味」を考えさせ、求職者数、率の引き上げを図る。 ・就職率に加え、職種別就職者数の実数も重視。企業の求人ニーズに合致した人材を輩出できる学校として評価を定着させる。 ・大手企業に重点を置いた就職指導を行う。経営的に安定し、教育制度が充実した大手企業へ就職させることで、入社後の経済的基盤が安定し、定着率もよくなる。この結果、中途退社が少なくなり、学生本人だけでなく、学校への評価も高まる。 ・ただし、企画系専門職において規模は小さくても拘りのある専門型のアパレルや縫製工場における独自の企画への取組みから縫製職のみならず企画職の募集が出てきており、これに対応した就職指導にも注力。 ・引き続き、インターンシップ研修制度を拡充する。新規受入れ企業を開拓。 ・企業とのコラボを通じて新しい就職先の開拓も行う ・同窓会組織「OIFer Link」と連携し、卒業生の活躍状況、社会的評価の把握に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や意思を伝えるためのプレゼンテーション能力に加え、社会人として必要な挨拶、礼儀・マナー、言葉遣い等を入学時から指導。 ・学内における企業説明会の継続実施。企業概要や業務内容の理解に加え、就業意欲の喚起、企業に対し、自己アピールできる機会を創出した。 ・インターンシップ研修への参加を通して、就職を実現した学生の割合は徐々に好転し、インターンシップ研修への参加➡就職という好循環を維持していく。 ・パターンメイキング能力検定試験1級、およびリテイルマーケティング検定等の合格者を増やすため、特別講義を継続して実施。 ・繊維産地の播州、高野口、尾州などとの取り組みを継続。就職機会を広げていく。

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

4-13 就職率

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	学科別に就職希望者数、就職者数、就職率、就職先企業等の目標を設定。 担当教員とキャリア支援課が連携を取りながら、個々の学生の就職活動を把握。就活レポートの提出を義務づけている。	就職希望者の割合を90%以上に引き上げる。 その改善策として、各学科の就職担当教員との密に情報共有を図り、よりキメの細かい指導に徹する。 企画系専門職において規模は小さくても拘りのある専門型のアパレルや縫製工場における独自の企画への取組みから縫製職のみならず企画職の募集が出てきており、これに対応した就職指導にも注力。 求人企業はコロナ前よりも増加したが、職種により採用人数に厳しい面がある。	就職者、就職率一覧 学院案内パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
仕事について知識を深め、就職活動に向けた研修時や面接時に必要な書類を準備。 就職希望先へのアプローチや、方向性志望動機などを明確なものにする。 個人面談を通して就職に向けての活動方法やアプローチの手法、面接へ向けての準備などを個別で相談、学生個人の適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している	

最終更新日付

2023年7月1日

記載責任者

4-14 資格・免許の取得率

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	<p>学科ごとに資格検定の目標取得率を掲げ、試験直前の検定対策講座を継続的に実施。</p> <p>資格検定の合格実績を前年全国水準と比較し、対策を講じる。</p> <p>資格検定対策のため、外部から講師を採用し、傾向と対策講義を実施。</p> <p>2021 年度よりファッションクリエイター学科に「3Dモデリスト」を新設。それに伴い「3D モデリスト検定」を導入。2022 年度は学生 3 名、教員 2 名が合格。</p>	<p>資格検定取得率向上のための授業、補講等の継続的实施。</p> <p>外部講師の活用。</p> <p>「文章題読解作成能力検定」(3 級)に全員合格を目指す。</p>	2022 年度各種検定試験合格率一覧

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
新しい資格免許のリリースは継続して行い、並行して運営方法、カリキュラムの見直しを図る。	

最終更新日付	2023 年 7 月 1 日	記載責任者	
--------	----------------	-------	--

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<p>卒業生の社会的評価の把握に関して、キャリア支援課が企業訪問の際、活動、勤務実態を聴取している。学校主導で卒業生の独立起業を支援するため、学外で展示販売の機会を確保。</p> <p>中長期計画のプロジェクトのひとつとしてインキュベーションを設定。2021年度より始動。同窓会組織として「OIFer Link」を立ち上げ、SNSでの交流、コミュニティ形成、キャリア支援、学内コンテンツの共有などを目指す。また、SNS等を活用して、卒業生の活躍実態の把握、卒業生ネットワークの構築を進める。学内に事務局担当も設置。</p>	<p>ホームページに卒業生向けのコンテンツを設け、学校行事や採用情報を掲載。</p> <p>同窓会組織「OIFer Link」のさらなる活用。</p>	<p>学院パンフレット OIFer Link</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>同窓会組織「文化すみれ会」を「OIFer Link」に改名。SNSを通じて卒業生との連携を深めていく。</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

基準5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> 学校の社会的評価は、質を担保した教育指導や高い就職率、教育設備機器の充実に加え、学生が抱える多様な問題に対応できる支援体制や環境整備の有無が重要になっている。 学生の将来を決める就職に関して、学内での企業説明会、インターンシップへの参加、キャリア支援課と担当教員が連携した個別相談などを実施。 退学者は 2020 年度は 74 人(退学率 10%)、2021 年度は 112 名(退学率 14%)、2022 年度は 104 名(退学率 14%)。 学生からの相談で増加傾向にあるのが、友達ができない、学校になじめない等のこころの悩み、および授業についていけない等の学力不足。もうひとつは経済的理由から修学の継続が難しいこと。心の悩みについては学年担任と個別相談、教職員による情報共有を進めるとともに、専門カウンセラーを配置し対応している。 一方、経済的な理由で修学困難な学生には 2020 年度からスタートした国の新修学支援制度により延べ 110 数名に支給された。 	<ul style="list-style-type: none"> デザイナー、パタンナー職の求人数が減少傾向であったが、コロナ禍からの脱却を企図して求人増の方向性が出始めている。 また、企画系専門職において規模は小さくても拘りのある専門型のアパレルや縫製工場における独自の企画への取り組みから縫製職のみならず企画職の募集が出てきており、これに対応した就職指導にも注力。 学内における企業説明会の内容を改善する。例えば、その企業で活躍する卒業生を随行し、仕事内容を説明、リモート等により随時開催など適時・的確な開催を進めていく。 中途退学率を半減させることを目標に掲げ、学生本人、保護者面談を実施し経済的な面では修学支援制度の適切な運用がなされるように学内での周知徹底を図っていく。 入学前のオープンキャンパス、学科説明会等の個別相談で学生の進学動機や意思を確認する。入試面接の評価方法も改善した。 	<ul style="list-style-type: none"> アパレル企業の専門技術職(デザイナー、パタンナー等)の募集人数は先行き不透明感が続きそう。求人募集が来ていないアパレル企業への早急なアプローチが必要である。 就職状況は全体的にも環境は厳しかったが、縫製職ほか特色のある企業内定が増加。 日本学生支援機構の奨学金延滞率は全国平均をわずかに上回っている。奨学生、卒業生に返還を呼びかける。 学校独自の奨学金制度は、年間授業料全額、または一部を支給。 海外留学奨学金として 100 万円を上限に OIFer Link より奨学金を支給。

最終更新日付

2023 年 7 月 1 日

記載責任者

5-16 就職等進路

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<p>職業教育に特化した専門学校として、就職率 100%を目標に、キャリア支援課と卒業年次担当教員が連携して就職指導に当たる。</p> <p>コロナ禍により就職を希望しない学生が大幅に増加した。</p> <p>キャリア支援課は企業説明会の開催の企業折衝、インターンシップ受入交渉、新規企業の開拓、模擬面接等を主に担当。</p>	<p>キャリア支援課の機能強化のためスタッフの拡充。</p> <p>東京を中心に新規就職先企業の開拓。</p> <p>コロナ禍の中、求人数は減少しているがデジタル関連の総合職、販売系の採用意欲は徐々に回復基調になってきているのでこの分野を強調した学修、就職指導を強化。</p> <p>2021 年度よりスタートした TFL 社との共同による 3D モデリストコースの新たな就職先を開拓。</p> <p>企業コラボなどを通じて従前にはない企業での求人開拓を図っていく。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>一人ひとりに対するきめ細かな指導体制と就職内定を早期に実現するための支援体制は整備されている。</p> <p>就職活動に向けた研修時や面接時に必要な書類を準備。就職希望先へのアプローチや、方向性、志望動機などを明確なものにするためカリキュラムの一環として組み込まれている</p>	

最終更新日付

2023 年 7 月 1 日

記載責任者

5-17 中途退学への対応

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<p>2020年度は74名、2021年度は112名、2022年度は104名。</p> <p>学年担当教員が学生の出席、遅刻、健康状態、課題提出状況等の異常に早期に気づき、対処する。担当教員の面談、保護者を含めた三者面談を実施。その結果を上司に提出。</p> <p>外部カウンセラーによる個人面談の実施。</p>	<p>中途退学の原因を「経済的」「学力的」「健康的」「家庭的」「進路変更」に分類しているが、C系では学力的理由(授業について行けない)B系では進路変更(やりたいことが変わった)などの理由が増加傾向にある。</p> <p>学生の学業や出席状況に無関心な保護者が一部見受けられるようになった。</p> <p>経済的理由による学業継続が困難な学生を対象に奨学生制度の見直しや学費の分納措置等を講じる。</p> <p>「高等教育の新修学支援制度」により経済的理由による退学者は減少した。</p> <p>学力的に授業についていけない学生に対し補講を継続実施。</p> <p>理解度を配慮した授業展開に努める。</p> <p>学生個人のクラスへの適応傾向を把握するため、引き続き、担当教員を中心に「学校生活不満足群」の発見と早期ヒアリングに努める。</p> <p>学校と保護者とが情報共有化を図り、協力体制を固める。</p>	<p>年度別中途退学者推移</p> <p>学籍簿</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>退学者の低減については、早期の把握と状況確認、対応、学内での情報共有、連絡体制、個別指導、保護者面談などにおいて連携体制を構築する取組みを今後も行っていく方針。</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

5-18 学生相談

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	外部から専門カウンセラーを招へいし、学生のさまざまな相談に乗る体制を整備。 個人情報保護の観点からカウンセリングの日程や場所の設定に配慮している。 相談日は学生個別にメールで告知。プライバシーに配慮している。 近隣の専門医と連携協定を結んでいる。	学生の実態について教員間で情報共有化を図る。ただ個人情報保護、守秘義務の観点から共有することに難しさが伴う。 2021年度より新たな専門カウンセラーと契約。相談件数は増加傾向にある。	カウンセリング業務委託契約書 学生向けカウンセリング告知、案内
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	留学生の生活上、勉学上の相談は担当が、滞在許可の申請や経済的な案件は事務局で対応している。	将来的な留学生の増加に対応した受入れ体制の整備。 留学生に対し、適切な生活指導できる教職員の育成。 留学生の就職斡旋、指導の強化。 将来的に留学生増加に伴って、専任者の育成・確保する必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談については、早期に察知し迅速、丁寧に対応することを目指す。そのための学内体制の整備と情報の共有を図り、相談内容によっては教員一人ではなく複数人体制で対応する必要もある。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

5-19 学生生活

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	学校独自の奨学金制度 ・大阪文化特別奨学金 ・大阪文化奨学金 ・OIFer Link 海外留学奨学金 他にコンテストの入賞者に対する奨励金も支給。 企業等の外部奨学金制度の活用促進。	保護者等がリストラによって失職、あるいは死亡、病氣入院等で経済的に困窮する事態が年に数件ある。こうした場合や事故・災害発生に対応できる堀田育英財団、パル井上財団等の外部の奨学金制度を告知し、活用する。 「学生生徒 24 時間共済」へ加入。これにより突発的な経済的困窮事態へ対処できる。	大阪文化服装学院奨学金制度規程 学院案内パンフレット 募集要項 学院 HP
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学校健康法に基づき、毎年 4 月に全校生を対象に健康診断を実施。検査結果を保管記録し、本人宛に結果を通知。有所見の学生には再診を勧める等、適切な健康維持管理体制を整備済み。 保健室を設置しているが、専門職員の配置はない。 学校専門医と契約済み。 近隣の総合病院との連携体制を整備済み。	保健室の専門職員の配置が将来必要となる。	健康診断実施計画書 健康診断委託契約書 学校専門医との契約書
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	独自の寮はない。遠隔地から就学する学生に対し、学校と提携する寮・下宿斡旋業者を紹介している。	特になし	
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	クラブ活動等の団体活動はない。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の就学支援のため、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。 今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。	

最終更新日付	2023 年 7 月 1 日	記載責任者	
--------	----------------	-------	--

5-20 保護者との連携

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<p>成績不振、出席不良者等の保護者に対し、成績や出欠状況について文書で連絡。必要に応じ保護者との面談を実施。</p> <p>保護者とは緊急時への対応として直接 LINE による連絡体制も確保している。</p> <p>学校関係者評価委員会の委員に保護者が就任し、定期的に意見交換を行う。</p>	<p>コロナ禍以前に行っていた保護者対象の就職相談会を再検討する。</p>	<p>保護者宛のパンフレット</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の出席状況や成績等の確認、生活状況、健康管理などをきめ細かく観察し、必要に応じて迅速な保護者連絡、保護者面談を実施。綿密な連携体制の構築に努める。</p> <p>また連絡方法として LINE も活用。</p> <p>今後も適切な方法、時期に合わせて保護者への対応を行っていく。</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

5-21 卒業生・社会人

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	「OIFer Link」を通じて連携を深め、ホームカミングディや卒業生と在校生の交流会等を開催。 卒業生ネットワーク構築のため、専門業者をサポーターに迎え、同社独自の卒業生プラットフォームと、連動した SNS を採用・導入。 阪急うめだ本店で在校生作品の展示販売をしているが、これに卒業生の参加を募り、独立起業を支援。	同窓会組織の OIFer Link を通じて卒業生の活動を活性化。 学院に担当を設け、ハブとなり、OB 任せではない企画、運営を行う。	OIFer Link 会則
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	ファッションビジネス学会全国大会、関西支部総会で教員が研究成果を発表。 学生とともに全国産地に教員が出張し、それぞれの特徴、ノウハウを学ぶ。	2021 年度より TFL 社との協業によりスタートした 3D モデリストコースのノウハウを確立させる。 3D モデリスト特別ゼミを新設。卒業生も対象とし、TFL 校が受講生に対して提供している数々の特典を得られる。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	社会人を対象とした進路説明会を実施。大学・短大・専門学校からの再進学者は初年度前期授業料を免除。 単位制ではなく、時間制であるため、社会人の長期履修制度は導入していない。 図書室、学内施設の利用において、一部卒業生への使用を認める。	社会人対象に短期的履修制度の検討、整備。 学内施設、図書室等の利用は一定の手続きをすれば認める。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今後も卒業生の更なる満足度の向上を図るために新たに導入した卒業生プラットフォームと、連動した SNS を運用し支援体制を整えていく。	

最終更新日付	2023 年 7 月 1 日	記載責任者	
--------	----------------	-------	--

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> 外部デザイナー起用し、対処療法的なレノベではなく、デザイン性の統一感を持たせたレノベーションを実施。 事務局、インフォメーション→オンラインブース化、2F 廊下、会議室や保健室リニューアル、コーナーサインの刷新、学内サインの改善・デザイン統一等を実施。 加えて、中庭にウッドデッキも設置（OIFer LINK 協賛） ICT 教育環境整備の一環として、各教室にプロジェクタ等の整備を完了。 学外実習やインターンシップについては、すべて授業の一環として実施。特に業界企業と連携したインターンシップ研修には各学科とも力を入れており、企業と職業教育協定書等を結び、研修目的、意義、スケジュール等を明示。企業から研修成果を評価してもらう仕組みを確立している。 防災については年 1 回、消防避難訓練を実施。 災害発生時の初動マニュアルを整備済み。 耐震化は完了した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、すみれホール、学生ホール（カフェ化）、ショップ教室、3F 廊下、西館階段室・エントランス 等のレノベーションにも着手。 南館の図書室に「WGSN」システムを導入済み。今後、新コンテンツの導入を検討する。 各学科でインターンシップを実施してきたが、受入れ企業や内容、開始時期、期間等について全面的な見直しが必要になってきた。 卒業作品等アーカイブのデータ化、および蔵書類の充実。 FC 学科の「3D モデリストコース」や BM 学科の「AI ビジネス活用」授業などデジタル教育コンテンツへの取組みをアップデートする。 国際戦略・グローバル教育の一環として元国立ロンドン芸術大学 常任講師 Oleg 氏を招聘。国内に居ながらにして、年間を通して世界一流のファッション教育を受けることが可能な環境を整備し、今後拡大していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育設備、機器類は最新機器を導入する一方、定期的な補修、更新を継続。つねに最新設備を使用できる教育環境を整えている。 学外での産学連携事業を継続的に実施。具体例として、HEP FIVE との連携による学外における実践店舗の運営。阪急うめだ本店スークとタイアップした卒業生、在校生のブランド展示即売会「スーパークリエイティブアクト」の開催。いずれも継続取り組み案件。 2021 年度以降の入学者に対して PC 端末（グーグル社のクロームブック）を支給し、ICT を活用した教育環境を整備。 中長期計画に基づき強化領域を「DX/ICT」と定め、投資を絡め差異化を図る。これによって広い領域で通用する「学生人材価値向上」他校より先行したデジタルネイティブ世代の育成を目指す。

最終更新日付

2023 年 7 月 1 日

記載責任者

6-22 施設・設備等

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<p>外部デザイナー起用し、対処療法的なレノベではなく、デザイン性の統一感を持たせたレノベーションを実施。</p> <p>施設・設備・機器類は設置基準に適合している。特に機器類は毎年、一定の割合で設備更新を実施。</p> <p>2021年度以降の入学者に対してPC端末（グーグル社のクロームブック）を支給し、ICTを活用した教育環境を整備。</p> <p>オンラインオープンキャンパスのためのコンテンツの充実を図った。</p> <p>TFL社との協業で3Dプリンター、3D-CAD等を導入し、授業を行うと同時に内部教員の育成も図る。</p> <p>コロナ対策としては手指の消毒、座席間隔を空けての授業開催、定期的な換気などを日常化している。</p>	<p>オンライン授業の実施に伴う設備の充実。</p> <p>図書室の稼働率の改善を図る。</p> <p>図書室にオンラインでファッションの最新情報を検索できる「WGSN」システムを導入。デザイン発想やマーケティング授業に生かす。</p> <p>ICT資産、インフラの活用を進める。</p> <p>費用対効果の改善を目的にデジタル化による固定費を含め、あらゆる面で無駄を省いた経営基盤確立する。</p>	<p>財産目録 蔵書一覧</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育活動を進める上で必要な設備、教育機器等は定期的に点検、整備を行い、支障が出ないよう万全を期す。</p> <p>範囲や費用等大規模なもの、事業計画に基づくものについては予算化を徹底し、計画的に整備を進める</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

6-23 学外実習・インターンシップ等

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<p>学外実習やインターンシップ、海外研修はすべて授業の一環として実施。その目的、意義、実施概要等を学生、保護者に事前に説明している。</p> <p>業界との連携による企業研修についてもその意義や目的を企業にも理解してもらい、成績評価を依頼し、実効性を引き出せるようにしている。</p> <p>ブンカフェスタは学友会主導で実施。</p> <p>入学式、卒業式の案内は、保護者に文書で案内している。</p> <p>卒業作品発表会はホームページで告知。学校関係者に招待状を発送。</p>	<p>企画職、専門技術職等の継続的インターンシップ体制の整備、および受入れ企業の開拓。</p> <p>企業によるインターンシップ評価システムの見直し。</p> <p>スーパーデザイナー学科、ブランドマネジメント学科、ファッションビジネス学科の海外研修に加えて新たにスタイリスト学科においてもソウルでのフォトシューティング実習を主とした「韓国フォトシューティング研修」を導入する</p> <p>デザイナー、パタンナー職のインターンシップ受入れ先へ継続的開拓。</p> <p>インターンシップの評価システムを企業とともに検討を加える。</p> <p>一方、インターンシップのあり方(内容、および時期・期間等)を学科ごとに検討する。</p>	<p>インターンシップ研修契約書</p> <p>インターンシップ研修実施案</p> <p>企業によるインターンシップ評価表</p> <p>学院ホームページ</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学外実習やインターンシップ、海外研修の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的等をしっかりと伝えている。</p> <p>また、実習・インターンシップ等については実習前トレーニングを行うとともに教員がインターンシップ先を定期的に訪問し、企業担当者とのヒアリングを行う。</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

6-24 防災・安全管理

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	年に一度、学生、教職員が参加して消防避難訓練を実施。災害発生時の初動マニュアルは整備できている。防災(消防)訓練は毎年6月に実施している。全校舎の耐震化は実施済み。消防設備等の整備、保守点検は法令に従い実施し、消防署の立入検査に基づき、適宜改善もしている。	南館との連携した防災対策計画の立案と訓練実施。 マニュアルの見直しと並行して、危機管理マニュアルの策定に取り組む。	消防訓練実施案 消防署からの改善指導 耐震工事
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	防犯体制整備の一環として、校内に防犯カメラを設置。また警備保障会社と契約を結んでいる。学校として危機管理マニュアルを定め、学内での事故等に対応する。近隣の病院と契約。 西側の通用口の門を自動ロックによって利用できるよう改善。 学外実習等を実施するに際し、事前に実習計画書、事後に実習報告書を提出させ、教員が引率することを原則としている。 「学生災害傷害賠償保険」「学生インターンシップ傷害賠償保険」は「学生・生徒24時間共済」において加入済み。 「学院生活ガイド」を改訂。オリエンテーションを通じて学生への周知を図る。	「学校関係者以外の者の無断立ち入り禁止」看板の設置。防犯カメラを4台に増設済み。 不審者の無断立ち入り防止。 災害等に対応できる緊急連絡ネットワークの整備、および危機管理マニュアルの作成。 「学生生徒24時間共済」に学生全員が加入。インターンシップ参加者にも当然に付保されている。 2017年度入学者から文部科学省認定のキャリア教育共済「学生・生徒24時間共済」に加入。個人賠償保険、治療費、葬祭費用、死亡・後遺症等を幅広くカバーできるのが利点 大阪府の条例施行に呼応して自転車通学者を対象に「自転車運転保険」への加入を義務化。未加入者の自転車通学は認めない。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
保険等の加入については十分なものになっている。 防災意識の向上や安全管理体制については学校全体で今後も取り組んでいく。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> 学生募集については、関西を中心に中四国、東海北陸、山陰、九州地区の一部で対面型・オンライン型進学説明会に参加する。 高校の進路指導教員と連絡を密にして、当校の教育活動等の特徴や成果等の情報提供を継続して実施。 学生募集は A0、指定校、学校推薦、一般等があり、いずれも大阪府専修学校各種学校連合会の自主規制に従って、適切に募集活動を行っている。 学内でオープンキャンパス、学科説明会を開催。当校の特徴ある教育内容が理解できるように工夫する一方、参加者との個別面談にも時間をかけている。 2022 年度はコロナ禍により引き続き WEB 施策対策を強化した。 OC ページ開設、個別オンライン相談会などを導入し、マーケ観点で、WEB・SNS 広告を活かした学院 PR、ネット TV での CM 配信を実施。 選考方法は書類審査と面接、学科によっては課題実習を課す。選考方法は学生募集要項に明記している。 広報業務のデジタルシフトの一環として SNS による学生が作成した動画 PR を開始。学生インフルエンサーの育成と高校生の獲得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で制限されていた、東海・北陸・中国地方へのガイダンス、訪問を一昨年レベルまで戻していく。 重点地域は大阪府、兵庫県、京都府。通学に便利な京阪神間で知名度の向上を図り、高校ガイダンスに力を入れる。特に服飾系コースのある高校との連携を深めていく。 並行して、ファッションへの興味を喚起するため、当校出身デザイナーの田中大資氏の協力を得て「高校生ファッションデザイン画コンテスト」を継続し、未参加校へアプローチをかける。 スタイリスト学科に新たなコースを設立し、新規獲得を目指す。 学生募集については高校との連携を図る一方で、大学・短大学・社会人、および留学生の比率を徐々に引き上げる。 IR・広報課を設置し、広報戦略・ブランディング全体を計画的に推進する。プレスリリースによる発信も強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中長期計画に基づき、デジタル施策の更なる強化を目的に学生が学びながら学院の活動や広報案件を SNS 発信する仕組み構築、横断プロジェクト化する。 さらにデジタルネイティブ層に向けた媒体出稿、 WEB 広告の強化・効率化を図る。 接触型のガイダンス等はメリハリをつけ効率重視する方向で進める。

最終更新日付

2023 年 7 月 1 日

記載責任者

7-25 学生募集活動

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<p>関西、北陸、中四国、東海、九州を中心に高校の進路説明会、会場ガイダンス等に参加。</p> <p>服飾系コースを設置している高校と連携授業を実施している。</p> <p>入学希望者の保護者向けに「職業実践専門課程」パンフレットを配布。職業教育に特化した実践的取り組みと就職状況を伝えている。</p> <p>福山・岡山・名古屋からの無料送迎バスでのイベント動員はコロナ禍により実施が制限されたが、代替えとして新たにエリアを拡大した交通費補助サービス企画でイベント動員を図っている。</p>	<p>一定数の動員が見込める高校での「進路説明会」に重点を置く。</p> <p>IR・広報課を設置し、広報戦略・ブランディング全体を計画的に推進する。プレスリリースによる発信も強化する。</p> <p>大学との違い、就職支援体制と就職率、学納品の比較、奨学金制度、教育ローン等を説明したパンフレット『保護者の皆様へ』を作成、配布。見やすくわかりやすいと好評であるため、アップデートして継続している。</p> <p>インスタグラム、ツイッター、ライン、you tube など、SNS を活用した学院の情報を発信している。</p> <p>WEB オープンキャンパスサイトをリリース。</p> <p>Zoom を使ったオンラインでの個別相談会の実施。</p>	<p>高校ガイダンス報告書</p> <p>会場ガイダンス報告書</p> <p>保護者、高校向け職業実践専門課程パンフレット</p> <p>『保護者の皆様へ』説明パンフレット</p> <p>WEB オープンキャンパス</p> <p>学院ホームページ</p>
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	<p>大阪府専修学校各種学校連合会のガイドラインに従って募集活動を行っている</p> <p>オープンキャンパスの中で授業内容等について、理解しやすい説明を心がけている。志願者との個別相談に重点を置いている。</p> <p>学校案内では、学科、コース特徴や企業との連携状況、およびその成果、就職実績等を正確かつ分かりやすく紹介している。</p> <p>希望者にはオンラインによる面接を実施。</p>	<p>A0 入試のネットでのエントリー及びインターネット出願者の利用度を高める。</p> <p>A0 面接の評価は学科で保存。入学後の学生指導に活用する。</p> <p>学生募集活動に関する個人情報データで管理し、セキュリティに万全を期す。</p> <p>将来の高大接続(選考制度の改定)に対応し、入試制度の見直しを進める。</p>	2023 年募集要項

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学生募集に関しては学生及び保護者に対して的確な情報を伝え、適切な進路選択ができるようフォローする。</p>	

最終更新日付	2023 年 7 月 1 日	記載責任者	
--------	----------------	-------	--

7-26 入学選考

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	入学選考基準、方法は学生募集要領に明記し、入学説明会等で説明している。 入学選考にはA0、指定校推薦、推薦、一般、編・転入学があるが、各選考基準を遵守し、実施している。	A0による入学者が全体の80%を占めている。入学選考は面接(一般入学、再進学、留学生については論文を課す)を基本にしているため、受験者の基礎的な能力等を判断しにくいことは否めない。	入学選考基準 2023年度募集要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	学科ごとに出席者数、合格者数、辞退者数を把握し、暦年データとして管理。 中長期計画で次年度以降の学科別入学者数の目標を設定している。 次年度入学者数を11月に予測。出席者数の推移や前年実績を参考に学科ごとの入学者数の推定値を算定し、クラス編成、教員・講師の配置等を定める。	経済的理由による辞退者への対応。例えば分納、延納、あるいは奨学金の借り増し等の措置を講じる。 2020年度から高等教育の修学支援制度による奨学金が充実。 学科によって定員と実績の乖離が目立つ。 面接の評価は学科で保存。クラス分けや入学後の学生指導に活用する。 入学志願者の保護者を対象に提携教育ローン等の説明、紹介。 オープンキャンパスで入学前に必要な学費等について、フィナンシャルプランナーによる説明会を開催。これを継続。 入学後の学校独自の奨学金制度の充実。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学生一人ひとりに対して、書類選考および面接を実施。 入学後進路変更がないように事前確認を十分行っている。 入学選考時に把握した情報は入学後も活用されている。 また、少子化などの問題をしっかり把握し、より戦略的に広報活動を実施する。</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

7-27 学納金

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<p>学納金、学生諸費等の徴収金額をすべて明示。学生諸費の明細も公表している。</p> <p>学納金の妥当性については、学院の収支状況を鑑み、大専各連加入の他専門学校の学費データや同業他校の学納金を比較検討し、素案をまとめる。それをもとに学院会議で決議し、理事会の承認を得る。</p>	<p>将来の ICT 化に伴い、学納金の引上げを検討する。学納金の改定については、常に在籍者数の増減や経費構造の見直す等のシミュレーションを行い、検討を続ける。</p>	2023 度募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<p>学生募集要項の中で『3 月 31 日までに入学を辞退した場合、授業料、施設維持費を返還する』旨、明記している</p>	<p>入学辞退者から授業料返還等について苦情はない。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育の環境、設備、学生サービス等の向上と充実のための投資は惜しまず、教育の質の向上、教職員の資質向上を図る。</p>	

最終更新日付	2023 年 7 月 1 日	記載責任者	
--------	----------------	-------	--

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去 20 年以上無借金経営を堅持し、財務基盤は安定している。しかし今後、在籍学生数の変動は避けられないと判断。これからの経営環境の変化に対応して人件費、教育研究費、管理費等を適切に管理する。 ・ 監事による監査に加え、監査法人による外部監査を実施している。外部からの指摘や改善意見については迅速かつ適切に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務的には、従来通り健全経営を維持する。ただし、教育環境の整備、入学者数の確保のための投資は積極策を継続する。一方、人件費等の固定経費軽減に取り組み、逆風に強い体質を目指す。 ・ 具体的には、広報費用等の学校資産として残らないものは節約し、教員研修、設備の刷新・増強、海外とのネットワークづくりなど、学校の資産となる有形無形のものへの投資は積極策で臨む。 ・ デジタル化による費用対効果の改善に取り組み、固定費を含めた無駄のない経営を目指す。 	

最終更新日付	2023 年 7 月 1 日	記載責任者
--------	----------------	-------

8-28 財務基盤

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	過去 20 年以上無借金経営を継続しており、財務基盤は安定している。在校生数の変動に対応して人件費、教育研究費、管理費等を適切にコントロールしている。 財務安定の一環として、退学者の低減に取り組む。今後、在校生数の推移に不安定な要素があるが、当面、施設設備の更新等には自己資金で十分まかなえる。	在籍学生数の変動に合わせて人件費、管理費などの固定費の削減を考える。 定員充足率 90%以上で推移。 将来の少子化に備えて留学生、社会人の募集にも目を向ける。 教職員の働き方改革の一環としてフルタイム以外の勤務制度を導入し、人件費の削減を図る。	事業活動収支計算書 資金収支計算書 貸借対照表
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	事業活動収支、資金収支、貸借対照表等について財務分析を時系列的に行い、理事会でその結果を報告審議している。 2021 度の人件費比率は 34.3%(前年 33.3%)教育研究経費率は 40.0%(前年 39.2%)となり、ほぼ適切な数値と判断する。教育活動収入が予算比 2,590 万円の増加。 2021 年度は海外研修、出張などの経費が減少。新たな投資として東京コレクションへの参加、卒業生ネットワーク作成、その他 IT 関連強化を実施した。	新たな強化領域を「DX 及び ICT」と定め、DX 対応・教育の推進にかかわる経費へのシフトが必要とされる。 すみれホール、学生ホール(カフェ化)、ショップ教室、3F 廊下、西館階段室・エントランス等のレノベーションに着手する。 IR・広報課を設置し SNS やオンラインを活用することで広報費用の削減を図り、その削減分を学生、教職員の研修、海外でのネットワークづくりに振り向ける。	理事会議案書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
財務基盤の安定は、学校経営にとって重要な課題の一つであり、今後もより安定化するよう万全を期す方針である 今後 18 歳就学人口の減少など厳しい取り巻く環境は厳しく、入学者減に伴い収入は減少することも予測されるが、将来に向けての投資を惜しまない。	

最終更新日付	2022 年 7 月 1 日	記載責任者	
--------	----------------	-------	--

8-29 予算・収支計画

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<p>予算編成について事業計画との整合性は図れている。</p> <p>予算編成は、中期計画に沿って単年度予算を策定。</p> <p>具体的には前年の7月から予算立案に着手。</p> <p>前年度実績を踏襲する形で予算を組む形となっていたが、これを改め、部署毎に方針を明確にした予算作成を行うようにする。</p>	<p>学科の強みや独自性を発揮するため、教務現場からの提案を今後も予算に反映していく。</p>	<p>理事会資料</p>
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<p>予算執行状況を月次ベースで把握。</p> <p>予算と実績の乖離をチェック。異常値を早期に発見し、できる措置を講じる。</p> <p>予算過不足が見込まれる場合は、年度末までに補正措置を行っている。</p>	<p>管理職の予算立案、企画提案を推進し、統制力の向上をはかる。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>中長期計画に基づき事業計画、予算を策定。</p> <p>予算は本部・学校ごとの教育目標・業務計画に基づき作成され、理事会・評議員会での承認を得る。</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

8-30 監査

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
<p>8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか</p>	<p>会計監査契約をしている会計事務所から年1回、公認会計士が来校し、外部監査を実施している。 日常の事業運営や会計処理、税務等についても、会計事務所からアドバイスを受け、内部監査は年2回実施。</p>	<p>財務内容の健全性を堅持しており、特に問題はない。</p>	<p>監査報告</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校法人監事による業務監査とともに内部及び外部の会計監査を受け、法令または寄付行為への遵守と財務の適正性を、確保するようにしている。</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

8-31 財務情報

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	財務情報公開は職業実践専門課程申請に合わせて、2013年度から実施。 理事会、評議員会で審議・承認後に自己評価報告書、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の議事録、財務状況等の情報をホームページで公開。 資金収支、事業活動収支計算書、貸借対照表。前年と該当年度を時系列に比較できるように表記。	公認会計士事務所による監査に加え、監事による内部監査を実施したうえで公開しており、何ら問題はない。 財務情報として公開するのは、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表である。	学院ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今後も、公認会計事務所と連携を取りながら、監査を適切に実施していく。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育法、専修学校設置基準等の関係法令、および学則、就業規則等に基づき、学校の理念、方針の実現のため適正な学校運営に努めている。 ・多岐にわたる法令解釈に関しては、大阪府教育庁私学課等の行政機関等と相談し、逸脱のないようにしている。また顧問弁護士とも連携をとっている。 ・教育課程編成委員会等規則、コンプライアンス規程、情報セキュリティ管理規程、個人情報保護規程、ハラスメント防止規程、表簿・文書取扱規程、いじめ防止の基本方針など策定済。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営に必要な規則、規程を整備し、適切に運用している。 ・ 災害、事故等の緊急連絡ネットワークの総点検、 ・ 危機発生時における対応マニュアルを策定する。 ・ 学院経営を脅かす可能性があるサイバー攻撃、不正アクセス、個人情報漏洩等のリスク対策を目的とし、情報セキュリティ管理規程を制定。今後に向けて管理強化を推進する。 ・ 学園業務上において意識が必要な対策項目を「情報セキュリティ対応規則」として制定。今後も適切な個人情報の保護に取り組んでいく。 	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<p>学校教育法、専修学校設置基準等の関係法令、および就業規則に基づき、学校の理念、方針の実現のため、適正な学校運営に努めている。</p> <p>多岐にわたる法令の解釈に関しては大阪府等の行政担当窓口や顧問弁護士に相談し、逸脱のないようにしている。</p> <p>教育課程編成委員会等規則、コンプライアンス規程、情報セキュリティ管理規程、個人情報保護規程、ハラスメント防止規程、表簿・文書取扱規程、いじめ防止の基本方針など策定済。</p>	災害、事故等の緊急連絡ネットワークの総点検、危機発生時における対応マニュアルを策定する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校教育法、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営に今後も取り組んでいく。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

9-33 個人情報保護

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか。	<p>入学志願者、在校生、卒業生、および教職員等の学校が保有する個人情報に関して、「個人情報保護規程」に基づき適正に運用している</p> <p>中長期計画のプロジェクトの一環として「セキュリティPJ」を立上げ、サイバー攻撃、不正アクセス、個人情報漏洩等のリスク対策を目的として管理強化を推進する。</p> <p>コンプライアンス規程、情報セキュリティ管理規程、個人情報保護規程、ハラスメント防止規程、表簿・文書取扱規定を策定。</p> <p>大専各連等が開催するセミナーへ参加による啓発活動を実施。</p>	<p>2022年6月で情報セキュリティPJを解散し、情報セキュリティ委員会を発足。</p> <p>教職員に対する個人情報管理に関する啓発、教育活動の充実。</p> <p>情報リテラシー研修を在校生対象に継続実施。</p> <p>個人情報保護や人権、SNS等の外部セミナーに教員を参加させる。</p> <p>外部の情報セキュリティアドバイザーを委託し、情報リテラシー研修を定例化。</p>	<p>個人情報保護規程</p> <p>情報セキュリティ管理規程</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>文部科学省「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に基づき、学園業務上において意識が必要な対策項目を「情報セキュリティ対応規則」として制定。今後も適切な個人情報の保護に取り組んでいく。</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

9-34 学校評価

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	校長、総務課長、経営企画本部、学科長等が窓口となって自己点検、自己評価を実施し、報告書を作成。	自己評価委員会の構成員の見直し、特に若手教職員の意見、評価を反映させる仕組みづくり。学科長から委員を選出。学校運営の現状について理解を深める。	自己評価報告書
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	自己評価報告書をまとめ、ホームページで公開する一方、学校関係者評価委員会で意見聴取。	入学志願者、在校生の保護者を対象に自己評価報告書の概要を説明する。	自己評価報告書 学院ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	規程は整備しているが、学則には記載なし。関連業界から学科の特徴に応じ、適切な委員を選任する。任期は2年、再任を妨げない。	企業委員の出席が担保しにくい。各委員のスケジュール調整に難。リモート会議の実施により出席率は向上した。服飾系を設置している高校に対し、学校関係者評価委員の就任を依頼。	学校関係者委員会規約
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校関係者評価委員会を定期開催し、その評価結果を説明。その議事録をホームページに掲載。	学院ホームページで職業実践専門課程の趣旨、および認定学科の概要等を掲載している。	学院ホームページ 学校関係者評価委員会議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己評価報告書は申請があれば全項目をホームページにも掲載している。外部委員による学校関係者評価委員会を年2回実施。今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

9-35 教育情報の公開

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	職業実践専門課程「様式4」に従って、学校概要、教育内容等を公開。 産学連携事業の取り組み実績をホームページで紹介。 プレスリリースによる公開も実施。	保護者、関連業界への周知仕方を工夫する。 保護者向け説明パンフレット等を作成済み。 このパンフレットを毎年改定し、配布している。	職業実践専門課程「様式-4」 学院ホームページ 保護者向け説明パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報公開の内容、方法については今後も継続して検討、取り組んでいく。	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・高校との連携事業には継続して取り組んでいる。具体的には当校から教員を高校に派遣、あるいは高校生に当校に来てもらって、デザイン、縫製、就職指導等の連携授業を複数高校で実施。高校との協力、支援体制を固めている。 ・当校出身のデザイナー、田中大資氏と組んで、近畿、中四国、北陸地区の高校生を対象に「ファッションデザイン画コンテスト」を開催。高校生にファッションの楽しさ、おもしろさを感じてもらうのが目的。 ・2022年のデザイン画応募数は537点。秋フェスイベントの一環として3年ぶりに「高校生デザイン画コンテスト表彰式」を実施。 ・ファッション・繊維業界団体「関西ファッション連合」の協賛団体として、ファッション情報や品質管理、素材、人材育成、ITなどに、関する各種セミナーへの参加等。産学連携事業に取り組む窓口として連携を強化している。 ・SDGsに企業と連携して取り組む。『持続可能な社会と学校のカリキュラム』をテーマに研究に着手。 ・教職員がサステナビリティ・ディレクター研修を受講し、業界のサステナビリティについての理解を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッション系のコースがある高校に重点を置き、講師派遣や出張授業等の高専連携を継続する。 ・デザイン画コンテストでは「学校別団体賞」を設け、高校間の競争意識を喚起した。 ・「関西ファッション連合」の加盟企業の管理職を対象に社会人の学び直し教育プログラムを提案。「リカレント教育」を事業として定着させる。 ・SDGsについては「#4: 教育」を最重点取組として明確化「SSR活動」として発信、訴求する。学院HPで「社会的責任」として活動をアピールしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいがある人が抱えるおしゃれの悩み・課題を理解し、“リデザインする” 「コオフク塾」に参加。約3ヶ月間にわたりワークショップ形式で、企画から作品化までを実施。 ・韓国「Seoul Fashion Hub」が主催する、「Global Fashion Seminar」がソウルファッションウィーク内で行われ、森会長が「OIFがSDGs達成のためにできること」をテーマに講演。

最終更新日付

2023年7月1日

記載責任者

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<p>高校からの依頼に応じて、デザイン、パターン、就職面接等の出張授業を複数校で展開している。</p> <p>高校生を対象に「高校生ファッション画コンテスト」を開催、受賞者や教員を集め表彰式、ショーを実施。障がい者支援団体と連携し障がい者が抱える衣服に関する悩みや課題を理解し解決策を提案。</p> <p>ファッション画コンテストに加えて高校生向けにインスタグラムを活用したスタイリングフォトコンテストを実施。</p>	<p>実店舗の長期運営教育プログラムと並行して、WEBショップの立ち上げ、運営を実施。</p> <p>ファッションコースを起ち上げる高校に対してカリキュラムの提案や講師の紹介等の支援を実施。</p> <p>高専連携を拡大強化する。</p> <p>留学生を対象に日本語学校での出張授業を実施するため、教育プログラムを整備した。</p>	<p>高校との関係授業実施報告書</p> <p>高校生ファッションデザイン画コンテスト実施要領</p> <p>職業教育協定書</p>
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	<p>海外の教育機関との交流は、伊ポリモーダ校との間で交換留学生制度、教員・学生研修、ポリモーダ校の卒業ショーへの参加等の交流を進めている。</p> <p>米国ニューヨークのFITとは、ブランドマネジメント学科2年全員が約10日間、研修を実施。</p> <p>スタイリスト学科にて新たに韓国スタイリング研修を実施。</p> <p>ファッションのトップクラスの大学で組織する国際ファッション工科大学連盟(略称:IFFTI)に加盟済み。</p> <p>IFFTI主催のGFW(グラデュエート・ファッション・ウィーク)の卒業ショーに参加。</p> <p>ロンドンカレッジオブファッションの常任講師を講師に招聘。</p>	<p>ポリモーダ校とは継続的かつ多面的な提携関係を維持し、両校間のメリットを追求する。これに加え、ポリモーダ校ファッションデザイン学科3年、または4年に正規学生として編入できる契約を結んだ。</p> <p>そのための海外留学支援制度を整備済み。</p> <p>FITとは研修内容について見直し協議。</p> <p>ポリモーダ校はじめ海外のファッションデザイン校への正規編入者を増やす。</p>	<p>伊ポリモーダとの業務提携契約書</p> <p>伊ポリモーダ研修実施案および報告書</p> <p>米国ニューヨーク FITとの研修契約書</p> <p>韓国バイイングツァー報告</p> <p>海外留学生支援度</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>社会貢献・地域貢献・国際交流は学生、教員のスキルアップの取り組みとして今後も積極的に進めていく。</p>	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

10-37 ボランティア活動

小項目	現状の取組状況	課題と今後の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	ボランティア活動等について、特に具体的な活動を奨励していない。 学内イベントで売上金の一部をユネスコへ寄付している。 学校近隣の清掃を定期的実施。	大阪府、大阪市等が主催、共催する社会活動への参加を呼びかける。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の社会貢献・地域貢献という観点からもボランティア活動には積極的に参加して行きたい	

最終更新日付	2023年7月1日	記載責任者	
--------	-----------	-------	--

4 2022 年度重点目標達成についての自己評価

令和 4 (2022) 年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>2021 年度は、策定した中長期計画に基づき、学院ビジョン等に加え、各学科で、育成すべき人材像等当面の目標、及び 10 年後を見据えここ数年で着手すべき課題を抽出し、プロジェクトとしてスタート。</p> <p>5. グローバル戦略 6. DX 教育の推進 7. インキュベーション</p> <p>以上 3 点を取り組むべき重点 3 テーマに設定。2022 年度は各テーマに対し、具体的な課題を「プロジェクト」化し推進、磨きをかけていく。</p> <p>(教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022 年度もオンライン授業、オンデマンド授業の整備強化に加え、有効活用を目的とした運用拡大を行う。 新設した 3D モデリストコース、AI の特別講義など外部との協業で、今までにない独自のデジタルコンテンツを導入。この領域で、先駆者認知の定着と学生の「人材的価値」向上を狙う。 産学連携は、デニムプロジェクトに加えて尾州、高野口、西脇の各産地と新たにスタートし、引き続き新スタイル確立を目指し産地協業を継続する。 <p>(学生募集)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに「IR 広報課」を立ち上げ、情報共有や発信を強化しブランド力向上を図る 「入学広報課」では KPI や KGI の設定など数値管理を徹底する。 令和 4(2022)年度の入学目標を 315 人とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 2022 年度は中長期計画 2 年目ということで取り組むべき重点 3 テーマである「グローバル戦略」「DX 教育の推進」「インキュベーション」を引き続き踏襲し、さらに磨きをかけていくことを目標に設定した。 また、SDGs 志向が急加速し、当たり前の社会的責任(CSR)となる今、学院の重点戦略を包含する「基本概念」とし、判断軸に加えた。 特にグローバル戦略と DX 教育の推進は、今後の少子化なども含め、将来に向けての大きな課題として取り組んだ。 <p>(教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> POLIMODA 研修及びニューヨーク FIT 研修など海外研修の本格再開 スタイリスト学科の新たな海外研修として「韓国スタイリング研修」を導入 韓国のピョンテック大学やソウルファッションハブ(SFH)訪問。MOU 締結・関係強化 海外コンテストへのリアル参加再開 元・国立ロンドン芸術大学常任講師を招聘・定期授業化 3D モデリストコースにおいて、協業や講演など各方面からのオファーが急増 3D モデリストとして 4 名が就職内定 3D モデリスト検定 3 級に 5 名が合格 ファッション AI を独自開発した「ニューロップ」社と提携、通常カリキュラムを展開。 <p>(学生募集)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2023 年 4 月の入学者は 262 名。 <p>(就職)</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職率 86% (昨年 81%) 	<p>(グローバル戦略)</p> <ul style="list-style-type: none"> Polimoda 校には新たな協業としてニット分野でのコラボおよび着物を利用したアップサイクルコンテストを提案。 Accademia di Costume e di Moda 校と MOU 締結など関係強化を模索。 <p>(DX 教育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部委託していた 3D モデリストの講義を、2023 年度より当校教員が実施。自走化に向けて前進させる。 AI を駆使してトレンドを分析し、いかに「データをビジネスで有効活用するか」を重要視して導入したカリキュラムを実施。 <p>(インキュベーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生及び在校生が運営するブランドの衣装をスタイリストに対し PR し、リースを促すサービスとして「OIF プレスルーム」を新設。学院及び各ブランドの知名度及び価値を高めることを目指す OIFer LINK と通じて卒業生の活動を活性化。学院に担当を設け、ハブとなり、OB 任せではない企画、運営を行う <p>(SDGs)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も SDGs を取り入れたイベント、展示会などの活動を続けていく。 <p>(学生募集)</p> <ul style="list-style-type: none"> スタイリスト学科に新しく「ビューティ&スタイル」コースを設立。新規獲得を目指す。 高専連携、SNS ゼミの運用などを強化。 若手教員を登用し学校の魅力化を図る。

5 2022年度財務諸表

資金収支計算書

2022年度 2022/4/1～2023/3/31

(単位 円)

【収入の部】

科 目	決 算
学生生徒納付金収入	734,082,100
手数料収入	3,381,100
寄付金	723,000
補助金収入	53,618,300
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	35,310,141
受取利息・配当金収入	9,088,097
雑収入	3,797,698
前受金収入	438,174,600
その他の収入	263,375,301
資金収入調整勘定	△ 500,404,589
前年度繰越支払資金	1,107,127,221
収入の部合計	2,148,272,969

【支出の部】

科 目	決 算
人件費支出	285,856,832
教育研究経費支出	318,586,377
管理経費支出	153,512,129
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
施設関係支出	0
設備関係支出	16,039,210
資産運用支出	200,026,658
その他の支出	118,137,098
資金支出調整勘定	△ 70,103,994
翌年度繰越支払資金	1,126,218,659
支出の部合計	2,148,272,969

事業活動収支計算書

2022年度 2022/4/1～2023/3/31

(単位 円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	決 算
		学生生徒納付金	734,082,100
		手数料	3,381,100
		寄付金	723,000
		経常費等補助金	48,674,300
		付随事業収入	31,880,141
		雑収入	3,797,698
		教育活動収入計	822,538,339
事業活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	決 算
		人件費	288,210,154
		教育研究経費	360,472,894
		(減価償却費)	(41,886,517)
		管理経費	154,587,582
		(減価償却費)	1,218,359
		徴収不能額等	0
		教育活動支出計	803,270,630
		教育活動収支差額	19,267,709
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	決 算
		受取利息・配当金	9,088,097
		その他の教育活動外収入	3,430,000
		教育活動外収入計	12,518,097
事業活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	決 算
		借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	0
		教育活動外収支差額	12,518,097
		経常収支差額	31,785,806

特別収支	事業活動収入の部	科 目	決 算
		資産売却差額	-
		その他の特別収入	4,944,000
		特別収入計	4,944,000
事業活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	決 算
		資産処分差額	0
		その他の特別支出	0
		特別支出計	0
		特別収支差額	4,944,000

基本金組入前当年度収支差額	36,729,806
基本金組入額合計	△ 16,039,210
当年度収支差額	20,690,596
前年度繰越収支差額	145,258,194
基本金取崩額	-
翌年度繰越収支差額	165,948,790

事業活動収入計	840,000,436
事業活動支出計	803,270,630

貸借対照表

2022年度 2022/4/1～2023/3/31

(単位 円)

【資産の部】

科 目	決 算
固定資産	2,485,853,939
有形固定資産	1,555,233,416
特定資産	25,011,569
その他の固定資産	905,608,954
流動資産	1,145,922,338
資産の部合計	3,631,776,277

【負債の部】

科 目	決 算
固定負債	63,611,569
流動負債	514,814,446
負債の部合計	578,426,015

【純資産の部】

科 目	決 算
基本金	2,887,401,472
繰越収支差額	165,948,790
純資産の部合計	3,053,350,262

負債の部及び純資産の部合計	3,631,776,277
---------------	---------------

6 成績評価表（添付資料）

レターグレードと評価区間、および評価基準表

	評価基準
A（90点以上）	基本的な目標を十分に達成し、優秀な成績をおさめている
B（90点未満～75点以上）	基本的な目標を十分に達成している
C（75点未満～65点以上）	基本的な目標を達成している
D（65点未満～55点以上）	基本的な目標を最低限度達成している
E（55点未満）	基本的な目標を達成していないので再履修が必要である

学科別成績評価

	ファッションクリエイター学科 ファッションビジネス学科 スタイリスト学科、スタイリストマスター学科	ブランド マネージメント学科	スーパー デザイナー学科
A（90点以上）	A	A	A
B（90点未満～75点以上）	B	B	B
C（75点未満～65点以上）	C	C	C（不合格）
D（65点未満～55点以上）	D	D（不合格）	D（不合格）
E（55点未満）	E（不合格）	E（不合格）	E（不合格）

7 2022 年度検定結果報告書

		パターンメイキング技術検定					ファッション 3Dモデリスト検定	F販能力検定				F色彩能力検定		FB能力検定				スタイリングMAP検定			文章読解作成能力検定		
		1級	2級		3級		3級	2級	3級	2級	3級	2級	3級	2級	3級	2級	3級	トータル平均 ジュニアレベル	プレイヤー	ジュニア	準2級	3級	
		8/20	7/2	9/10	12/10		4/1	7/9		12/3		1/14		6/25		11/19		12/9.10	未定	未定	未定	未定	
		実技	筆記	実技	筆記	実技	事前課題提出 と筆記																
申込者(人)	2021	20	79	77	96	95	7	66		8	86	21	15		2			49	72			58	
	2022	25	68	67	119	119	9	49		1	60	5	12	3	1	1	3	46	49	10	1	44	
受験者(人)	2021	20	72	62	85	84	7	58		7	72	19	11		2			49	65			44	
	2022	18	62	52	98	98	9	37		1	50	4	7	1	0	1	2	44	49	10	1	35	
合格者(人)	2021	6	58	54	82	74	3	13		2	52	9	6		2			22	53			37	
	2022	1	41	43	94	71	0	1		1	23	1	4	0	0	0	2	40	39	9	0	19	
合格率(%)	2021	30	73.4	70.1	85.4	77.8	42.9	19.6		25	60.4	42.8	40		100			44.9	73.6			63.8	
※申込者数に 対する合格者	2022	4	60.3	64.2	78.9	59.6	0	2		100	38.3	20	33.3	0	0	0	66.7	83.9	79.5	90	0	43.2	
全国平均合格率(%)			53.4		77.1		25.0	53.6		54.5	57.2	56.7	67.7	41.5	58.5	46.4	55.0		66.9	73.5			
体調不良		1		1	6			3			5	1	1	2	1								
勉強不足		6	2	5	4																		
欠 席	寝坊							4			1						1					3	
	忌引き																						
理 由	退学/退学希望			4	3			1			1												
	長期欠席		3	5	8			1			1		4				1	1				6	
就職活動								1															
その他(失念等)			1					2			2												
合計		7	6	15	21			12	0	0	10	1	5	2	1	0	1	2	0	0	0	9	
		両科目合格者37名																				コロナ2名	